

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第六主日礼拝 2020年7月12日

前奏：

招きのことば：イザヤ 55:8-11

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なる」と主は言われる。

「天が地を高く超えているように、わたしの道はあなたたちの道を、わたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。雨も雪も、ひとたび天から降ればむなくしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、むなくしくはわたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたのみ言葉が私たちを生かします。あなたはイエス様によって私たちをあがない、あなたの子どもとしてくださいました。あなただけを信賴して、あなただけに聞きしたがっていきま
す。今朝も罪深い私たちを憐れんでください。イエス様のみ言葉によって私たちを赦し、きよ
め、強めてください。私たちは今日から始まる新しい一週間を、イエス様のお与えくださる安
らぎをいただいて始めます。神様と交わり、人々を大切にすすばらしい一週間にしてくださ
い。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立て
あげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹でカ
けてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。
この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたし
ます。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ8章1-11節

従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。キ
リスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したから
です。肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、
罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処
断されたのです。それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たさ
れるためでした。

肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えま
す。肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。なぜなら、肉の思いに従う者は、
神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従えないのです。肉の支配下にある
者は、神に喜ばれるはずがありません。神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなた
がたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属してい
ません。キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は
義によって命となっています。

もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリス
トを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがた
の死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

福音書朗読：マタイによる福音書13章1-9、18-23節

その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると、大勢の群衆がそばに集ま
って来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。イエスはた
とえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている

間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」

「だから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔かれたものとは、こういう人である。石だらけの所に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、自分には根がないので、しばらくは続いても、御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう人である。茨の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が御言葉を覆いふさいで、実らない人である。良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結ぶのである。」

讚美歌 520 番

1. 静けき河のきしべを すぎゆくときにも、うきなやみの荒海を 渡りゆくおりにも、
 <繰り返し> ころ安し、神によりて安し
2. むらがる仇はたけりて 困めどせむれど、いざなうものひしめきて 望みを砕くとも、
 <繰り返し>
3. うれしや十字架のうゑに わが罪は死にき、救いの道歩む身は、ますらおの如くに、
 <繰り返し>
4. おおぞらは巻き去られて 地はくずるとき、罪の子らは騒ぐとも、神による御民は、
 <繰り返し>

説教：「み言葉を聞いて悟る人」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はあるとき大勢の群衆に4つの土地に落ちた種のたとえ話をされました。道、石地、茨の土地、そしてよい地です。これは私たちの信仰についての教えです。

種はみ言葉です。土地は私たちの心です。神の国のことばが私たちの心の中に蒔かれます。神様のみ言葉への態度、イエス様への態度が4通りの土地にたとえられて教えられています。神様のみ言葉への態度によって自分の姿がわかるようになっています。自分の信仰の姿がわかるのです。良い地の心は多くの実を結ぶとされています。豊かな実を結ぶよい地というのはどのような心を使うのでしょうか。ほかの3つの土地とどのように違うのでしょうか。

4つ目の土地のように、100倍、60倍、30倍の実を結ぶ土地はどのような心のことでしょうか。神様のみ言葉はあなたに罪の赦しを与えます。そして新しい命を与えます。

ガラテヤ人への手紙5章22節には9つの御霊の実がリストアップされています。愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。それを引用してよい土地の結ぶ実について考えてみますと、まず、神様のみ言葉はあなたの心をどんなときでも愛で満たし、喜びで満たし、平安で満たします。神様や人生に退屈したり、飽きたり、疲れてしまったりしません。

また、人々に対してあたたかい心になります。人を受け入れ、赦し、すすんで人の助けになります。あなたの心を寛容で、親切で、善意あふれる心にします。

そして試練や誘惑にもびくとせず、実を結びます。試練は思い煩いを引き起こす苦しいものです。試練があっても心がふたつに分かれません。誘惑は神様とともに何かほかのものや人を頼りにしたいと思う中途半端な気持ちです。このように、神様を信じてはいても、それだけでは心細く思っ、神様とともにお金や人を頼りにしようとする誘惑はあるものです。試練や誘惑の中で信仰がぶれず、イエス様だけに信頼して実を結び続けます。誠実で、柔和で、自制心をもった人格の実を实らせます。

しかし、ほかの3つの土地は、せっかく種がまかれても実を結ぶことはありません。どのような土地でしょうか。

第1の土地は、道端です。種を蒔く人が空に向かってぱあーっと種を蒔きました。この人は腰をまげて種を植えるではありません。腰のところに持っている袋から種を一握りもって勢いよく蒔くのです。この地方では、日常的に見る風景でした。

道端に落ちた種は、芽が出る前に鳥がみつけて食べてしまいました。これは神様のみ言葉を聞いても悟らない人、受け入れない人です。

神様のことばを聞かない人はあなたのまわりにもおられますか。無関心な人です。忙しい人です。神様のことばを聞いても、もっと大切なことがあると思って、これを受け入れないのです。あのヘロデ王のようです。クリスマスにお生まれになったイエス様を拝むために三人の博士が遠い東の国から来たのに、ヘロデ王はイエス様を殺そうと思いました。イエス様が自分の人生と何の関係があるのか、もしあったとしたら自分が変わらなければならないが、それは遠慮したい、という人。または、小さい時から聖書のお話は耳にたこができるほど聞いてきたので私はよくわかっている。聖書よりも新聞を読もう、教会のお話よりもニュースを聞こう、という心も種が道端に落ちたことにあたるでしょう。

イザヤ書6章9-10節の預言が実現した、とイエス様は言われました。そこには神様のことばを聞くには聞かぬが、心で理解せず、悔い改めない人の姿が描かれています。神様のことばを聞きます。しかし、自分の心にフィルターがあって、そのまま受け入れないのです。このような人は実を結びません。

第2の種は堅い土地に落ちました。石だらけの土地です。パレスチナ地方は石灰岩の地層が浅いところであって、湖のそばではその上に肥沃な土が薄く乗っています。土の少ないところに落ちたこの種はすぐ芽を出したけれど、根がないので日が上がると水を吸い上げることができず枯れてしまったとされています。実を結ぶことはありませんでした。

御言葉を聞いてすぐに受け入れて熱心に信じるのですが、イエス様を信じているのに苦しいことがおこったら心が覚めてしまう人です。イエス様を信じたら苦しむようなことは起こらない、と考え違いをして、熱しやすく冷めやすくなっています。ガリラヤ湖をわたる舟の中で嵐にあったとき、舟の中で眠っておられたイエス様に弟子たちは大声で、起きてください、私たちがおぼれ死んでもなんとも思わないのですか、と叫びました。岩地の人は、イエス様を信じているのに艱難や迫害があると、話が違う！どうなっているのだ！と心が離れていってしまう人です。ヘブル人への手紙13章には、父から鍛えられることのない子どもがいるだろうか、鍛錬されないということは実の子ではない、と記されています。父なる神様も私たちの益になるように、神様のように純粹に聖なる心となるために、艱難さえもお用いになって実の子として私たちの信仰を鍛えてくださるのです。次に弟子たちだけで舟で向こう岸へ行こうとして嵐にあったとき、イエス様は水の上を歩き弟子たちに近づいて守ってくださったのですが、自分も水の上のイエス様のところに行きたいと言ったペテロさんを招いて、彼の信仰を鍛えてくださいました。イエス様だけが信頼できる方であることを実際に学ぶためでした。

イエス様を信じているのに苦しいことがおこったらすぐ心が覚めてしまうのは、神様のみ言葉の種が薄い砂地の土地に落ちて根をはらずに枯れてしまったからです。これでは実を結ぶことはありません。

第3の種はいばらの土地に落ちました。み言葉を聞きます。芽も、根も生えてきます。でも、しばらくすると茨が伸びて種が育つのをふさいでしまいました。イエス様を信じて成長するのですが、世の思い煩いや富の誘惑がみ言葉が覆いふさいでしまうという心です。残念ながら身を結ぶことはありません。

み言葉を聞いて信頼するのですが、それと共に器用に別のものにも頼ろうとする心です。イエス様だけにとことん従えない人です。信仰と何かを両立したい、のめりこまないでどこかでバランスをとっていきたい、という人です。隠れた二つ心です。偽善者です。本当は信仰という

土台によって愛と知恵に満たされて家庭生活や社会生活に押し出されていくのですが、何か勘違いをして信仰と家庭の両立、信仰と社会生活の両立を考える人です。世の思い煩いがでくるとそちらに心奪われます。富の誘惑、経済的な豊かさに引き付けられて、信仰ばかりを大切にしていたら食べていけなくなる、とあって、本音と建て前、神の前と人の前を使い分ける人です。実を結ぶことはありません。

しかし、ローマ人への手紙 10:18 に、「信仰は聞くことにより、しかも、キリストのことばを聞くことによって始まるのです」とあります。キリストのことばは、ここで語られる種まく人が勢いよく蒔きつづける種のように、確かに語り続けられます。かたくなにみ言葉を受け入れない人にも、神のことばは語られ続けます。艱難や迫害が来て、すぐに離れてしまった人にもみ言葉は語られ続けます。イエス様だけを信頼できないで、思い煩いや誘惑によって信仰が覆いかぶされてしまう人にも、み言葉は語られ続けます。

マタイ 11 章 28 節のみ言葉が先週の礼拝で読まれました。イエス様が、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい、休ませてあげよう、と言われたところです。このみ言葉を受け入れない無関心な人、受け入れてもすぐ苦しいことがあると離れてしまう冷めやすい人、すぐには離れないけれど心の中にイエス様とは別に何か頼りにするものがある中途半端な人は、イエス様が約束してくださっている休みを得ることができません。けれども、今日もイエス様は私たちに、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい、休ませてあげよう、と語り続けておられます。

私たちは、自分の心が最初の 3 つの土地のように、神の言葉をまっすぐに聞こうとせず、また聞いても悟らない心であることがわかりました。けれども、マリヤと婚約中であったヨセフはみ使いの声を聴いてマリヤの上におこった神様のみわざを信じて従いました。クリスマスの日にイエス様を探し出した東の国の博士たちはイエス様を信じてひれ伏して拝み、喜んで帰っていきました。ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネは、イエス様の語られた、わたしに従ってきなさい、というみ言葉を信頼して、すぐに網や舟を捨ててイエス様に従いました。百人隊長もイエス様の権威を信じて、自分のような者の家にイエス様をお迎えすることはできないがイエス様からお言葉さえ頂戴できれば病気の僕は必ず治る、と確信しました。群衆の中でイエス様の服に触れさえすれば直してもらえると信じて手をのびた女の人は、その信仰によって癒されました。二人の盲人も、イエス様には目を直すことができることを信じて、見えるようにしていただきました。

神様のみ言葉の種は蒔き続けられています。その種の持つ力と命によって、受け取る心に実が結ばれます。種が 100 倍、60 倍、30 倍の実を結ぶのは、よい土地の力ではありません。種に宿るいのちです。私たちは道、岩地、茨の土地のような心です。ですから、自分がどんな土地

であるか、ということよりもむしろ、種である神様のみ言葉、イエス様のみ言葉に集中しましょう。語り続けられるイエス様の約束のみ言葉に信頼しましょう。み言葉が私たちに信仰の実を豊かに結ばせてくださいます。聞いてすぐに行い、迫害にたえ、敵を愛し、試練や誘惑にみ言葉によって打ち勝って、イエス様にだけより頼み、御心を行いましょう。あなたの信仰があなたの家庭生活や社会生活を、確信をもって、愛にあふれ、知恵深く歩ませてくださいます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 339 番 献金 献金感謝の祈り

1. 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて めぐみを賜え、
わが日わが時 わがもの皆は 今よりとわに 君のものなり。
2. わが手は君の み業をならい、われの歩みは み跡をふみて、
いそしみ進み、主の御力に 常にたよりにて 強からしめよ。
3. われの舌をば すくいの主の 恵みをうたう 器となして、
わが口唇（くちびる）に よき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ。
4. 黄金、しろがね 知恵も力も 献げまつれば、みなとり用い、
我のころを 宝庫（みくら）となして、み旨のままに 治めたまえや。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の 大御神(おおみかみ)に ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。

アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン。

後奏